

日本教育方法学会 第31回大会プログラム

《大会日程》

第 一 日 9月30日・土	10：00	課 題 研 究 ①			課 題 研 究 ②			課 題 研 究 ③		
	12：30	休 憩								
	13：30	自由研究 1	自由研究 2	自由研究 3	自由研究 4	自由研究 5	自由研究 6	自由研究 7	自由研究 8	
	15：00									
	15：30	課 題 研 究 ④			課 題 研 究 ⑤			課 題 研 究 ⑥		
	18：00									
	18：30	会 員 懇 親 会								
	20：00									

第 二 日 10月1日・日	9：30	自由研究 9	自由研究 10	自由研究 11	自由研究 12	自由研究 13	自由研究 14	自由研究 15	自由研究 16
	12：00								
	12：10	総 会							
	13：00	休 憩							
	14：00								
	17：00	シ ン ポ ジ ウ ム							

1995年 9月30日(土)・10月1日(日)
於 筑波大学 第二学群

大会参加要領

1. 会場案内：会場は、筑波大学第二学群です。会場への経路については、次頁をご覧ください。

2. 受付：大会第1日(9月30日)、第2日(10月1日)とも9:00からです。

- ・大会参加費(発表要旨集録代を含む)は、一般会員3,000円、学生会員2,000円です。
- ・当日会員(臨時会員)もこれに準じて受付けております。
- ・本年度までの学会費(95年度：一般会員6,500円、学生会員4,000円、94年度以前：一般会員5,500円、学生会員4,000円)を未納の方は、併せてお納めください。
- ・本年度(1995年度)の学会費を納入された方は、受付時に『教育方法24』をお受け取りください。
- ・会員懇親会の参加受付も行いますので、ふるってご参加ください。
(詳しくは、15頁をごらんください。)
- ・受付にて「ネームプレート」を用意しておりますので、お名前をお書きのうえ、おつけください。

3. 昼食：第1日(土)は、第二学群食堂をご利用ください(営業時間：9:00～13:30)。
第2日(日)は、食堂が閉店しますので、受付にて弁当券を販売する予定です。
なお、第2日目の日曜日には、会場付近で営業する飲食店がほとんどありません。

4. 研究発表：発表会場は、4、5頁の〈講義棟の案内図〉をご覧ください。

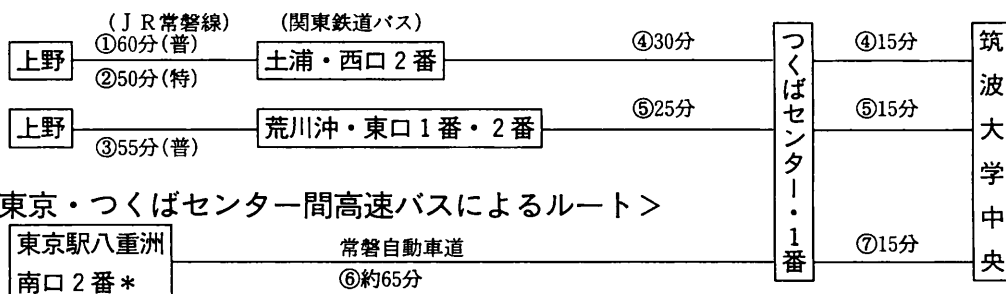
- ・自由研究の発表時間は、以下の通りです。
個人研究：発表20分 質疑10分
共同研究：発表30分 質疑10分
(但し、口頭発表者が1名の場合は、個人研究に準じます。)
- ・自由研究における共同研究発表者の氏名は、「発表申込用紙」に記入された順序によります。また、○印は口頭発表者です。
- ・本プログラムに記載されているコーディネーターおよび司会者、提案者の氏名は、五十音順です。

5. 会場校連絡先：〒305 つくば市天王台1-1-1 筑波大学教育学系教育方法学研究室

なお、大会に関するお問い合わせは、学会事務局(TEL.0824-24-6744)にお願いいたします。

<筑波大学案内図>

<鉄道・バスによるルート>



* 21時30分以降は、乗り場が 3 番になります。

◎高速バスにご乗車の方は、「筑波山行き」高速バスにご乗車なさらないようにご注意ください。
つくばセンターで、「筑波大学中央行き」バスにお乗り換え下さい。

〔料金〕

① JR 常磐線	上野駅～土浦駅	普通	1090円
② JR 常磐線	上野駅～土浦駅	特急 (自由)	2020円 (指定) 2520円
③ JR 常磐線	上野駅～荒川沖駅	普通	930円
④ 関東鉄道バス	土浦駅～筑波大学中央		580円
⑤ 関東鉄道バス	荒川沖駅～筑波大学中央		580円
⑥ 高速バス	東京駅～つくばセンター		1230円
⑦ 関東鉄道バス	つくばセンター～筑波大学中央		240円

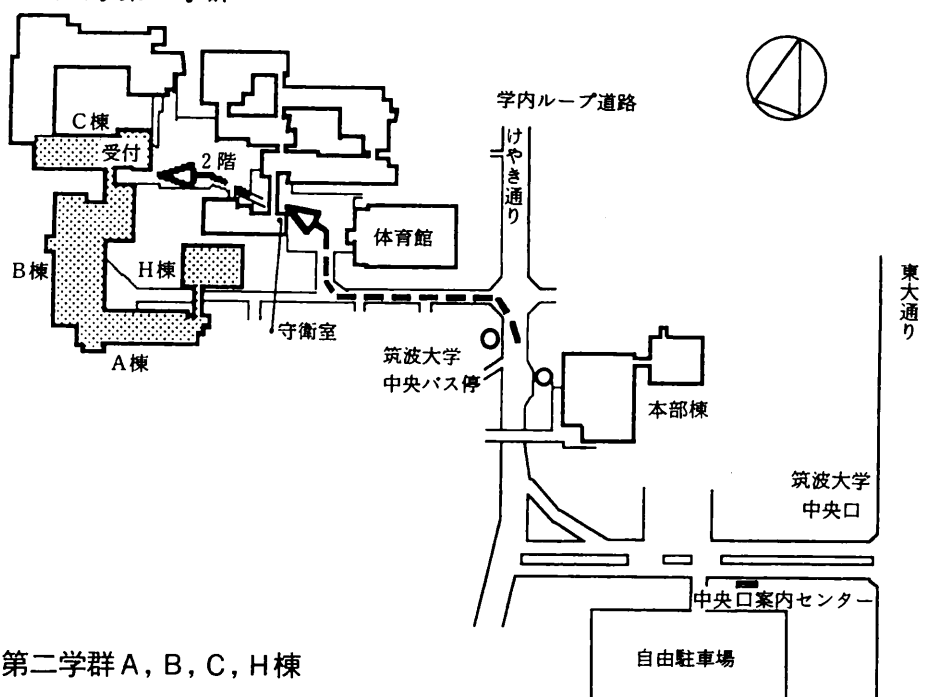
<自動車によるルート>

常磐自動車道を桜土浦 I.C. で降り、東大通りを北上し (約10km)、筑波大学中央口よりお入り下さい。



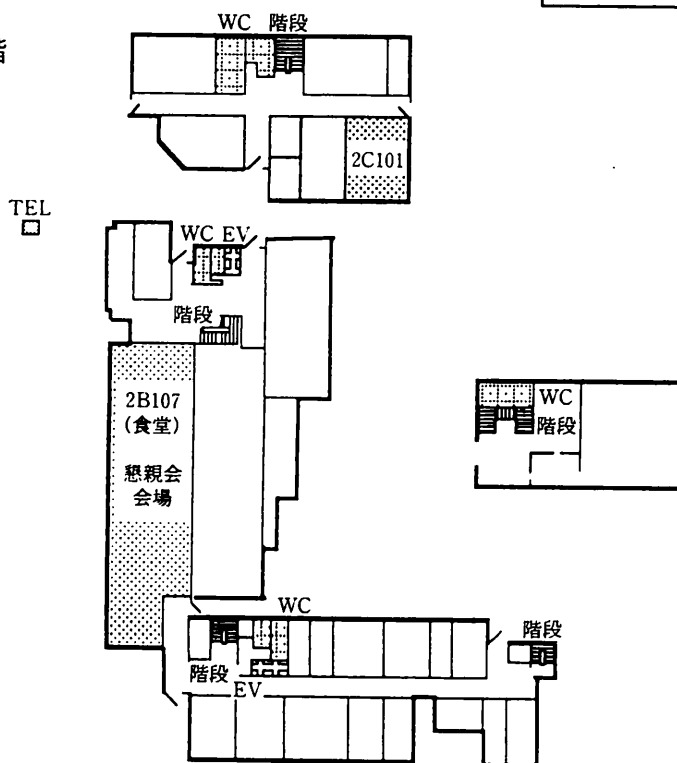
<講義棟の案内図>

筑波大学第二学群



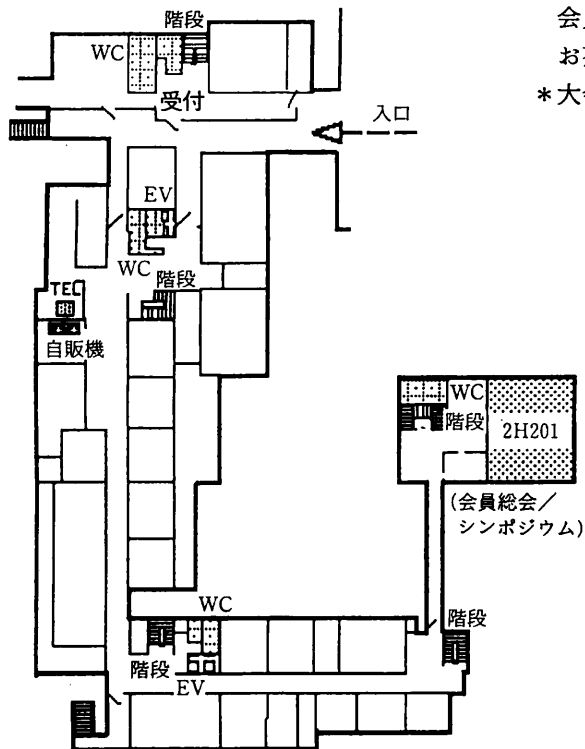
第二学群A, B, C, H棟

1階



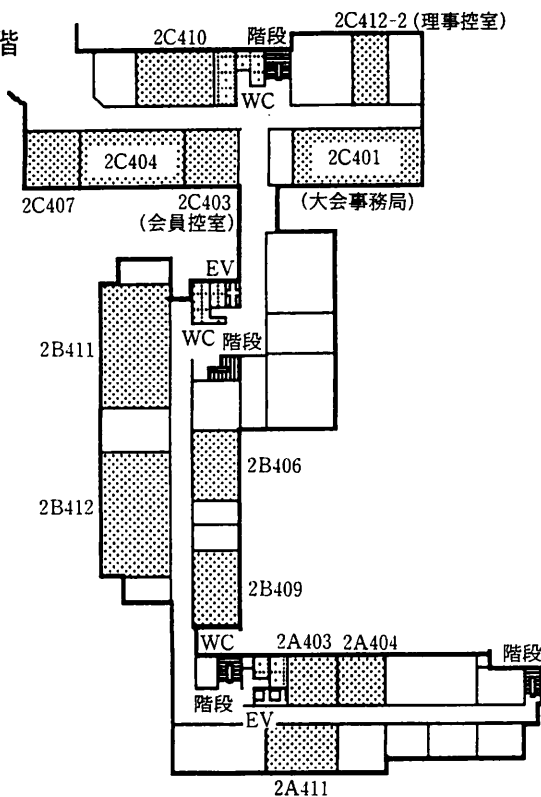
第二学群 A, B, C, H 棟

2 階



* 理事控室は、2C412-2 室です
 会員控室は、2C403 室です
 お茶などを用意しております
 * 大会事務局は、2C401 室です

4 階



課題研究①・④：2B411 室
 課題研究②・⑤：2B412 室
 課題研究③・⑥：2C404 室
 自由研究 1・9：2A403 室
 自由研究 2・10：2A404 室
 自由研究 3・11：2A411 室
 自由研究 4・12：2B406 室
 自由研究 5・13：2B409 室
 自由研究 6・14：2C407 室
 自由研究 7・15：2C410 室
 自由研究 8・16：2C404 室
 会員総会/シンポジウム
 ：2H201 室

課題研究①

戦後授業研究の成果と課題

(2B411室)

(10:00～12:30)

コーディネーター・司会者

鈴木 秀一（札幌学院大学）

山下 政俊（島根大学）

提案者

宮坂 義彦（聖路加看護大学）島小の授業と斎藤喜博教育学・教授学の特質と成果 …23

諸岡 康哉（金沢大学）学習集団づくり，集団づくりの特質と成果 ……24

若狭 蔵之助（前鳥取大学）生活と教育の結合をめぐる三つの時期(1)その一・二段階 …25

（コーディネーターによる設定趣旨）

1960年代は、教育方法学研究にとって、豊かな動きが多様に発展した時期だったと思います。斎藤喜博氏の島小学校の授業づくりは授業の理想像を次々とつくり出して、授業観を確立することに大きな貢献をしました。また、教科関係の各団体は、それぞれの教科の一定の内容に関して新しいプランを創り出し、カリキュラム改造と結合した授業づくりの方向を探索していました。教育を生活と結合することを重要な観点とする方向も生活教育連盟の人々や、生活づくり方の実践にまなんだ人々によって地道に追究され、地域と結びついた学校のあり方やそこでの授業の果たす役割の解明を積み重ねておりました。授業を子どもたちと教師の集団的共同作業として展開し、活発な集団思考によって子どもたちの学習を生き生きとした主体的な学習にすることは、どのような立場の人も等しく追究したことでありますが、とりわけ、全国生活指導研究会の「班づくり」の実践の成果が授業づくりにも生かされ、学習集団による授業が追求されましたし、集団での討議を重要な授業の一環とする仮説実験授業研究会の授業づくりは、その「授業書方式」とともに広く普及しました。

このほかにもまだまだ多くの授業研究が多様になされていたと思いますが、第31回大会では、①島小の授業と斎藤喜博教育学・教授学の特質と成果、②学習集団づくり，集団づくりの特質と成果、③生活と教育との結合を大事にする方向を地道に追求した動きの特質と成果、について解明することを課題といたしたいと考えております。

9月30日（土） 午前

課題研究②

「居場所」概念の教育方法学的検討

(2B412室)

(10:00～12:30)

コーディネーター・司会者

市川 博 (横浜国立大学)

湯浅 恭正 (香川大学)

提案者

藤原 幸男 (琉球大学) 身体的共振を基盤とした共同の関係と対話的世界の創造 ……26

堀内 久美子 (愛知教育大学) 子どもの居場所としての保健室 ……27

武藤 文夫 (立教大学) 学習の場を中心として ……28

(コーディネーターによる設定趣旨)

学校はいま、不登校生、海外帰国子女など特定の者だけでなく、程度の差はあれ、すべての子どもにとって『居場所』になっていないと厳しく批判されている。

そこで、この課題研究では、①そもそも、子どもの「居場所」とは何か、②「居場所」が誰にどう奪われているのか、③「居場所」を回復し、それを保障していくとはどういうことか、などの問題について、授業論・学級論、学校保健等の立場から、子どもにとって学校・教室・授業とは何かを原点から問い直しつつ説明することを願ってテーマを設定した。

課題研究③

教育方法学研究における「知の枠組み」
（パラダイム）の再構成

（2C404室）

（10：00～12：30）

コーディネーター・司会者

柴田 義松（成蹊大学）

吉本 均（神戸女子大学）

提案者

白石 陽一（熊本大学）教育方法学研究における人間学的方法の可能性

－「人間学的時間」の観点から指導の原則を問う－ …29

田中 耕治（兵庫教育大学）「学び」ととらえる形成的評価の試み

－「素朴概念」を着目した授業づくり（小学校4年生

理科「電気や光のはたらき」）に即して－ ……………30

森脇 健夫（三重大学）子どもの「物語産出」としての授業の場

－「教授＝学習」過程のパラダイム変換の必要性－ …31

（コーディネーターによる設定趣旨）

「いじめ（自殺）」や「登校拒否（不登校）」といった教育問題の深刻化がいわれるなか、教育実践のリアリティーを捉えて教育現実へコミットしてきた教育方法学研究の「知のあり方」そのものの問い直しが求められている。それは、従来の教育学の知見を批判的に継承しつつも、現代思想の動向や今日の隣接諸科学の成果をふまえた研究アプローチによって、あらたに教育方法学の「知の枠組み」（パラダイム）を再構成しようとする学問的挑戦とでもいうべき試みでもある。戦後50年を経たいま、戦後授業観をどのように総括し、きたる21世紀教育への展望を開いていくのかというライトモチーフのもと、提案者にはそれぞれ専門の立場からの提案を期待している。

なお本研究は、「教育方法学における学際的研究の進め方」（1992年、奈良教育大学）、「教育方法学研究における『知の枠組み』の検討」（1993年、成蹊大学）と取り組まれてきた課題研究の継続であり、学会として研究グループを組織して取り組んでいる「教育方法学研究における『知の枠組み』（パラダイム）に関する学際的・総合的研究－戦後授業観の総括と21世紀教育への展望－」の一環として位置づくものである。

9月30日（土） 午後

自由研究 1

(2A403室)

司会者 中 野 光 (中 央 大 学)

山 田 昇 (奈 良 女 子 大 学)

- 13:30 ① 昭和初期郷土教育における民俗伝統への接近
 - 宮本常一の教育実践を中心にして -32
 小 国 喜 弘 (東京大学大学院)
- 14:00 ② 昭和10年代から20年代半ばにおける実地授業批評の形成過程33
 松 本 裕 司 (大分・日田高校)
- 14:30 ③ 秋田県におけるコア・カリキュラムの成立と変容
 - 増田小プランの検討 -34
 ○石 井 鈴 子 (秋田・五城目第一中学校)
 米 澤 正 雄 (秋 田 大 学)

自由研究 2

(2A404室)

司会者 子 安 潤 (愛 知 教 育 大 学)

宮 原 修 (お茶の水女子大学)

- 13:30 ① ドイツ教授学における「コミュニケーション論的転回」
 - コミュニケーション教授学の意義と課題 -35
 米 井 公 介 (広島大学大学院)
- 14:00 ② 学校における学びの諸形式36
 - 国際的な活動理論研究と Klaus Holzkamp の学習論の視角から -
 手 取 義 宏 (大阪市立大学大学院)
- 14:30 ③ 社会的実践における活動理論, 社会的実践としての教育活動
 - 第3回国際活動理論会議でのディスカッション -37
 山 住 勝 広 (大阪教育大学)

自由研究 3

(2A411室)

司会者 上 野 ひろ美 (奈 良 教 育 大 学)

庄 司 他人男 (福 島 大 学)

- 13:30 ① 教育における「居場所」の思想と構造 (その2)38
 - フレーベルにおける「遊戯」の場所からデュイにおける「作業」の場所へ -
 深 澤 悦 子 (神戸女子大学研究生)
- 14:00 ② フレーベルの「場所性」に関する人間学的考察
 - Kindergarten 思想の現在化 -39
 船 越 美 穂 (福岡教育大学)

9月30日(土) 午後

自由研究 4

(2B406室)

司会者 笹本正樹 (高松短期大学)
山口 満 (筑波大学)

- 13:30 ① 総合学習の評価
ー子供の自己評価の意味ー40
佐藤 真 (秋田大学大学院)
- 14:00 ② 子どもの“問い”からつくる学習41
ー生活科実践の視点からー 小川 修一 (埼玉・今成小学校)
- 14:30 ③ 生活経験学習における子どもの認識をどうとらえるか
ー生活を表現することのメタ認識的意義ー42
○小川 博久 (東京学芸大学)
○内山 隆
(東京学芸大学附属世田谷小学校)

自由研究 5

(2B409室)

司会者 臼井嘉一 (福島大学)
森分孝治 (広島大学)

- 13:30 ① 役割体験を主軸にした問題解決学習論
ーシステム論による社会科の授業構想ー44
井門正美 (筑波大学大学院)
- 14:00 ② アメリカにおける地理教育45
ー市民性の観点からー 中野真志 (大阪市立大学大学院)
- 14:30 ③ ドイツ旧DDR5州の歴史および社会科指導要領(1991/92年度使用)について
の考察46
ードイツ旧DDR地域における社会科的教科教授の新たな構想と実践(II)ー
船尾日出志 (愛知教育大学)

自由研究 6

(2C407室)

司会者 磯田一雄 (成城大学)
碓井岑夫 (和歌山大学)

- 13:30 ① 教育における「個と集団の関係」についての再検討
ー授業論の中日比較(その3)ー47
宋 栄芬 (神戸女子大学大学院)
- 14:00 ② 宮坂哲文における「学級」概念の検討48
山岸知幸 (広島大学大学院)
- 14:30 ③ 教育における学習目的
ーいかに子どもは法則性や創造性をとらえていくかー49
森本佐和子 (立教大学大学院)

9月30日(土) 午後

自由研究 7

(2C410室)

司会者 井谷善則 (大阪教育大学)
願藤浩志 (龍谷大学)

- 13:30 ① 教育活動における「参加」の自己形成機能50
田代高章 (広島大学大学院)
- 14:00 ② 教育研究とパラダイムをめぐって51
田口三奈
(日本学術振興会特別研究員)
- 14:30 ③ 情意形成における他者・共同体の役割
－教科学習活動への視点－52
金本良通 (埼玉大学)

自由研究 8

(2C404室)

司会者 小泉祥一 (高知大学)
長澤憲保 (兵庫教育大学)

- 13:30 ① 校内授業研究がもつ力量形成の促進機能
－単元開発に携わる教師の比較追跡から－53
山口好和 (大阪大学)
- 14:00 ② 教材研究・マイクロティーチングを組み込んだ教科教育プログラムの開発(2)
.....54
三橋功一 (北海道教育大学)
- 14:30 ③ 情報処理教育における方法論(Ⅲ)
－表計算ソフトにおける「加工能力」の養成－55
○本橋進 (東海女子短期大学)
○今井昌彦 (東海女子短期大学)

9月30日(土) 午後

課題研究④

学校五日制と教育課程編成の課題

ー現行指導要領の何をこそ改訂すべきかー

(2B411室)

(15:30~18:00)

コーディネーター・司会者

清水 毅四郎 (滋賀大学)

中野 和光 (福岡教育大学)

提案者

小川 博久 (東京学芸大学) 学校五日制に対応する編成原理は学校観の質的変換である

ー基礎・基本の見直しの必要性ー56

的場 正美 (名古屋大学) 学校5日制をふまえた現行指導要領改訂の原則57

森分 孝治 (広島大学) 学習指導要領の何をこそ検討すべきか58

(コーディネーターによる設定趣旨)

戦後50年という節目の本年の前半、大きな出来事が二つ起きました。一月の阪神大震災の時
には、被災者の沈着冷静な行動と、若い人々の生き甲斐を求めたボランティア活動が目され
ました。三月の地下鉄サリン事件の時には、高度な教育を受けた若い秀才らが逮捕され、彼ら
の生きる目的や目標にかかわって、科学教育・歴史教育・宗教教育のあり方が論じられました。

また、身近な「いじめ」や「不登校」の問題も無視できません。冷戦終結後の急激な社会変
化に伴う価値多元化の中で、いわば学校教育の総崩れ現象が生じ、従来の枠組みや前提の問い
直しを迫られています。現行学習指導要領も変貌する社会に対応して編成が行われたはずで
すが、その対応は正しかったのかどうか検討が必要です。

こうした状況の中で学校完全五日制も間近い今日、学校教育の本来の任務は何か、今後の教
育課程編成上の課題は何か、現行指導要領の改訂すべき点は何か、等について追究したいと思
います。

的場正美氏には五日制における教育課程編成上の課題を原理原則的な立場から提案してもら
います。森分孝治氏には現行指導要領への批判的な立場から代案を提言してもらいます。小川
博久氏には現行指導要領に対して条件付き支持の立場から改訂してほしい点を提案してもら
います。

9月30日（土） 午後

課題研究⑤

「指導」概念の再構成
－「支援」「援助」との関係で－

(2B412室)

(15:30～18:00)

コーディネーター・司会者

谷川 彰 英 (筑波大学)

豊田 ひさき (大阪市立大学)

提案者

折出 健 二 (愛知教育大学) 生活指導研究の立場から59

高浦 勝 義 (国立教育研究所) 生活科の「支援」の特質とその教育的意義60

二杉 孝 司 (金城学院大学) 教師の「指導」が授業をつくる61

(コーディネーターによる設定趣旨)

- ①「生活」科で、「指導」に代わって「支援」「援助」が強調されるようになった理由は何か？
 - ②「支援」「援助」で、全ての児童・生徒に学力を保障するような授業が実現できるのか？
 - ③生活指導で、児童・生徒を自立へと導く「指導」性は、「支援」「援助」とどう関わるのか？
- という3点から、「指導」概念の再検討に迫りたい。

9月30日（土） 午後

課題研究⑥

教育におけるコンピュータ利用の新しい方向

(2C404室)

(15:30~18:00)

コーディネーター・司会者

八田 昭 平 (愛知学院大学)

水越 敏 行 (関西大学)

提案者

大 谷 尚 (名古屋大学) コンピュータは教室に何をもたらすか

ーコンピュータを用いた授業を対象とした観察研究
と分析の必要性ー62

木 原 俊 行 (岡山大学) コンピュータ教育利用の新しい方向63

ーマルチメディアの教育利用と教師の役割の質変化ー

篠 原 文陽児 (東京学芸大学) マルチメディアと教育方法の改善64

(コーディネーターによる設定趣旨)

学校へのコンピュータ導入は、量的に年を追って増加してきたが、その利用の仕方にも、
ようやく質的な変化がみえはじめてきた。CD-ROMやネットワークなどを使う先端的な
授業と、かつてのCAIになおこだわる授業とのギャップも明白になってきた。こうした現
実の状況を分析すると共に、近未来の方向についても論じ合う。

●会員懇親会

日 時 : 第1日(9月30日・土) 18:30~20:00

会 場 : 第二学群食堂

会 費 : 4,000円程度

会員相互の親睦をはかるため、懇親会を開きます。多数の会員のご参加をお願いいたします。

●書籍販売について

学会事務局では、受付にて学会機関誌『教育方法』、研究紀要『教育方法学研究』ならびに『発表要旨集録』のバックナンバーを販売いたします。この機会にぜひお求めください。

なお、『教育方法』最新刊(第24巻)は、本年度の学会費を納入された方には、受付の際にお渡しします。(大会以降に学会費を納入された方には、後日お手元に郵送させていただきます。)

自由研究9

(2A403室)

司会者 藤田輝夫 (秋田大学)
三原征次 (大分大学)

- 9:30 ① フレーベルにおける人間的自立の関係論的考察65
田岡由美子 (神戸女子大学大学院)
- 10:00 ② 保育におけるカリキュラム研究の動向と課題
ー戦後わが国の保育カリキュラム研究論文を中心にー66
師岡章 (東京学芸大学大学院)
- 10:30 ③ あそびにおける「物語性」と「共同性」に関する考察67
長瀬美子 (大谷女子大学)
- 11:00 ④ 学習媒体としての演劇の意味
ー Dukes Theatre TIE 劇団の検討を通してー68
小林由利子 (川村学園女子大学)
- 11:30 ⑤ 「こと環境」という視点
ー「物的・人的」環境二元論を越えて69
桑原昭徳 (山口大学)

自由研究10

(2A404室)

司会者 天野正輝 (京都大学)
平野智美 (上智大学)

- 9:30 ① 授業構成原理としての「自己活動」の再検討
ー「自己活動」における教育的パラドックスー70
尾島卓 (広島大学大学院)
- 10:00 ② ヴァルドルフ学校の理論と実践
ー算数教育を中心としてー71
武田義子 (関西学院大学大学院)
- 10:30 ③ ドイツにおけるプロジェクト授業の実践的探究72
飯島薫 (名古屋大学)
- 11:00 ④ ドイツの事実教授学会のこれまでの経緯とそこに提出された論議73
原田信之 (創価大学非常勤講師)
- 11:30 ⑤ 自由ヴァルドルフ学校の教育評価74
吉田武男 (高知大学)

10月 1 日 (日) 午前

自由研究11

(2A411室)

司会者 岩 垣 攝 (千 葉 大 学)
寺 西 和 子 (愛知教育大学)

- 9 : 30 ① カリキュラムのグローバル化による教育方法の変容について75
浅 沼 茂 (東京学芸大学)
- 10 : 00 ② 社会批判的実践力の形成と教材づくり76
ーヒラー, G.G. の「現実近接学校」(Realitätsnahe Schule) をめぐってー
小 野 擴 男 (奈良教育大学)
- 10 : 30 ③ 高等学校における環境教育, 消費者教育の在り方
ー学習指導要領の位置づけと指導方法の問題点ー77
千 葉 浩 三 (宮城・柴田農林高校)
- 11 : 00 ④ 教育内容の編み直しと参加78
ージェンダーと学びー ○吉 田 和 子 (東京・芝商業高校)
○山 田 綾 (愛知教育大学)

自由研究12

(2B406室)

司会者 五十嵐 二 郎 (比 治 山 大 学)
三 石 初 雄 (福 島 大 学)

- 9 : 30 ① 力を加えることに関する子どもの理解の考察
ー小学校4年理科「船をつくって川で流そう」の授業分析ー79
松 尾 一 成 (名古屋大学大学院)
- 10 : 00 ② 生活的概念・理論と学習とのかかわりに関する発達的研究並びにそれに基づく
教育内容の検討 (3)
ー中学3年 力と運動・エネルギーの学習についてー80
関 谷 健 (京都大学聴講生)
- 10 : 30 ③ 映像と文字記録による比較授業分析の試み
ー日中共通国語教材を用いてー81
○中 村 亨 (九 州 大 学)
○李 霜 華 (九州大学大学院)
○宮 崎 やよい (九州大学大学院)
- 11 : 10 ④ 授業諸要因の関連構造にもとづく子どもの思考の構造的把握82
○日 比 裕 (名 古 屋 大 学)
○的 場 正 美 (名 古 屋 大 学)
○飯 島 薫 (名 古 屋 大 学)
○石 川 英 志 (岐 阜 大 学)
○柴 田 好 章 (名古屋大学大学院)
○松 尾 一 成 (名古屋大学大学院)

自由研究13

(2B409室)

司会者 大槻和夫 (広島大学)
小田切正 (元北海道教育大学)

- 9:30 ① 要約指導に関する一考察83
矢部玲子 (北海道教育大学研究生)
- 10:00 ② 「島小の授業」を読む(その1)
－「未来につながる学力」のなかの金子実践を例に－84
北川金秀 (加古川看護専門学校)
- 10:30 ③ 斎藤喜博の横口授業「山の子ども」の分析(5)
－「出口論争」再考－85
井上光洋 (大阪大学)
- 11:00 ④ イメージの真実性を追求する授業過程における対話の分析
－対話の特質, 対話過程, 対話能力－86
○宮坂義彦 (聖路加看護大学)
○戸田淳子 (長野・赤穂東小学校)

自由研究14

(2C407室)

司会者 佐藤学 (東京大学)
松平信久 (立教大学)

- 9:30 ① 臨床課題に直接せまる生徒と教師の関係改善の方法87
小島勇 (埼玉大学大学院)
- 10:00 ② 対話的教育の構想
－子どもを捉える視座の研究(その5)88
角野幸代 (神戸女子大学大学院)
- 10:30 ③ 「カルテ」に見られる教師の子ども理解89
田代勢津子 (九州大学)
- 11:00 ④ 教育実践力養成の方法論においてタクト概念の重要性はどう生かされ得るか
－ハビトゥス概念の援用を通して考える－90
西岡けいこ (香川大学)
- 11:30 ⑤ 教師の知識についての一考察
－ pedagogical content knowledge について－91
徳岡慶一 (北海道教育大学)

10月1日(日) 午前

自由研究15

(2C410室)

司会者 加藤 幸次 (上智大学)
藤岡 信勝 (東京大学)

- 9:30 ① ティーム・ティーチングにおける順序選択学習の効果92
松浦 盛人 (上越教育大学大学院)
- 10:00 ② 教師の反省的成長に関する研究の展望
－他者との「対話」システムに着目して－93
木原 俊行 (岡山大学)
- 10:30 ③ 教育実習における授業の録画方法に関する基礎的研究 (VI)94
○平山 勉 (秋田大学)
浦野 弘 (秋田大学)
- 11:00 ④ マルチカメラによる授業の録画と活用方法に関する研究95
○後藤 明史 (名古屋大学)
○平山 勉 (秋田大学)

自由研究16

(2C404室)

司会者 高田 喜久司 (上越教育大学)
本田 敏明 (茨城大学)

- 9:30 ① 話し合いを中心とする授業の展開過程の分析
－発言に含まれる概念の変化に着目して－96
柴田 好章 (名古屋大学大学院)
- 10:00 ② 授業研究会における議論の分析
－発言表の応用による－97
田代 裕一 (西南学院大学)
- 10:30 ③ 授業研究方法の今日的課題
－授業研究演習システム開発からの考察98
澤本 和子 (山梨大学)
- 11:00 ④ 初任教師の授業力量形成に関する実証的研究 (I)
－面接調査の方法を用いて－99
○吉崎 静夫 (日本女子大学)
○新井 孝喜 (茨城大学)

インフォメーション

●総 会

日 時 : 第2日(10月1日・日) 12:10~13:00

会 場 : 2 H201

主な議題 : 会務報告

1994年度決算

1996年度予算案

次期大会校

10月1日（日） 午後

シンポジウム

戦後50年，いま学校を問い直す

(2H201室)

(14:00～17:00)

司会者

長谷川 栄 (筑波大学)

日比 裕 (名古屋大学)

提案者

杉山明男 (吉備国際大学) 戦後学校改革の流れのなかで	100
中野重人 (国立教育研究所) 「そろえる」と「ちがえる」と	101
中村 亨 (九州大学) 子ども処遇の適切性の閾値を守れ —教育固有の原理・機制を現場で問う—	102
水内 宏 (千葉大学) 学校論・教育課程論の立場から	103

(設定の趣旨)

戦後50年，学校は，高度経済成長を機に変貌してきたといわれる。とりわけ偏差値＝受験体制のもと，〈落ちこぼれ〉〈校内暴力〉〈いじめ〉〈不登校〉といった諸問題がクローズアップされ，子どもたちは，「学校に行く」ことの必要や「学校で学ぶ」ことの意味を見いだせなくなってきているのではないか。

また，本格的な学校五日制への移行が具体的なカリキュラム編成の課題として検討されはじめ，21世紀へ向けての生涯学習体系の整備が主張され，学校の位置や役割が相対化してくるなかにあっても，一人ひとりの子どもたちに「人間としての生き方」や「基礎学力」をきちんと保障していく場としての学校であり続けてほしいという声も根づよい。

今年になって阪神・淡路大震災や地下鉄サリン事件などの一連の報道のなかで，地域と学校の関係，子どもや青年たちの生き方にかかわって，あらためて戦後教育における学校の位置と役割について思いをめぐらした方も多いと思う。

本シンポジウムでは，戦後50年の節目にあたって，戦後教育における学校の果たしてきた役割を問い直すことで，21世紀へ向けての学校のあり方を展望していきたい。

日本教育方法学会刊行書籍

教育方法 1.	教科内容・指導方法の現代化	1 9 6 6	(品切れ)
教育方法 2.	授業改造の基本問題	1 9 6 8	(品切れ)
教育方法 3.	授業の組織化と教師の指導性	1 9 6 9	(品切れ)
教育方法 4.	学力差と教授・学習過程	1 9 7 0	(品切れ)
教育方法 5.	教育方法学 '70年代の課題	1 9 7 2	(品切れ)
教育方法 6.	授業研究の課題と方法	1 9 7 4	(品切れ)
教育方法 7.	現代学校教育論の再検討	1 9 7 5	(品切れ)
教育方法 8.	教育課程再編の原則	1 9 7 6	(品切れ)
教育方法 9.	現代訓育理論の探究	1 9 7 7	(2,163円)
教育方法10.	学力の構造と教育評価のあり方	1 9 7 9	(品切れ)
教育方法11.	現代授業理論の争点と教授学	1 9 8 0	(2,472円)
教育方法12.	学級教授論と総合学習の探究	1 9 8 2	(2,678円)
教育方法13.	いま授業で何が問われているか	1 9 8 4	(2,472円)
教育方法14.	子どもの人間的自立と授業実践	1 9 8 5	(2,884円)
教育方法15.	実践にとって教授学とは何か	1 9 8 6	(2,266円)
教育方法16.	個性の開発と教師の力量	1 9 8 7	(2,472円)
教育方法17.	教育方法を問い直す	1 9 8 8	(2,987円)
教育方法18.	新教育課程と人間的感性の育成	1 9 8 9	(2,000円)
教育方法19.	知育・徳育の構想と生活科の指導	1 9 9 0	(1,760円)
教育方法20.	学校文化の創造と教育技術の課題	1 9 9 1	(1,760円)
教育方法21.	自己学習能力の育成と授業の創造	1 9 9 2	(1,760円)
教育方法22.	いま、授業成立の原則を問う	1 9 9 3	(1,860円)
教育方法23.	新しい学力観と教育実践	1 9 9 4	(1,860円)

最新刊・教育方法24 戦後教育方法研究を問い直す ——日本教育方法学会30年の成果と課題——

<内 容>

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| I. 戦後教育方法研究と21世紀教育 | V. 教育課程の編成原理を問い直す |
| II. いま求められる授業研究のあり方 | VI. 学校教育とメディアリテラシー |
| III. 「個性化」重視の時代における集団とは何か | VII. 子ども観を問い直す |
| IV. いま、なぜ問題解決学習なのか | 日本教育方法学会の30年 |

「教育方法」は、大会当日、会場にて会員割引価格で販売いたします。

この機会に多数の方々のご購入をお願いいたします。

第18巻からは「会員配布制」となりましたので、学会費を納入された方には、明治図書より直接お手元まで郵送いたします。

〒170

東京都豊島区南大塚 2-39-5

明治図書

TEL.(編)03-3946-3151・3152

TEL.(営)0482-56-1175